

公益社団法人 ソーシャル・サイエンス・ラボ 定款（抜粋）

（目的）

第3条 この法人は、地域の産業活力、地域の文化振興及び地域住民の健康福祉向上の実証研究、調査及び施策提言を行い、地域産業振興の為の施策並びに地域文化の伝統継承に貢献し、もって地域活力のための具体施策に取り組み、並びに多様化・複雑化する経営課題を解決するための中小企業に対する経営支援、及び地域文化の行催事の支援に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 地域経済社会に貢献するための経済・政治・文化及びこれらの諸制度に関する調査研究並びに大学研究機関等と連携した共同の研究活動
 - (2) 伝統的日本文化の行催事等慣習・風俗・歴史の研究、保存及び伝承並びに地域の行催事支援
 - (3) 中小企業経営力強化支援法に基づく経営革新等支援業務
 - (4) 前3号の事業にかかる機関誌並びに法人活動のための研究レポート等の刊行
 - (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、奈良県において行うものとする。

入会案内

行政への提言を含め、事業を力強く推進していくためには、会員の一層の事業参画と協力が不可欠です。
そのため当公益社団法人では地域の活性化と文化の向上により寄与すべく常時会員を募集しています。
会費は以下の通りです。

- 個人正会員 一口 10,000円、一口以上
- 団体正会員 一口 10,000円、三口以上
- 賛助会員 30,000円以上

ぜひ入会をご検討くださいよう、よろしくお願い申し上げます。なお、手続き等の詳細は事務局にお問い合わせください。
(お問い合わせ) TEL: 0742-20-7807

当公益社団法人への寄附のお願い

当法人では、個人・法人からの寄附を募っています。
公益社団法人ならではの税の控除が受けられます。

当法人は、奈良県知事より2013年3月、公益性を有する組織として公益社団法人認定されています。そのため、当法人への寄附については税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。
■詳しくは税務署にお尋ねになるか、
国税庁のホームページ（<http://www.nta.go.jp/>）をご確認ください。

寄附については通常寄附と特別寄附があります。
特別寄附では使途や管理運営法を指定できます。

(1) 通常寄附金
当法人の会員を含む広く社会一般に常時募金活動を行うことにより受領する寄附金です。
寄附金額の50%以上を公益目的事業に使用します。
(2) 特別寄附金
上記寄附金のほか、個人または団体から受領する寄附金です。
寄附者が寄附金の使途及び管理運営方法に条件を付けることができます。
(注) 金銭のほか金銭以外の財産権（有価証券等）を含みます。
なお、これらの寄附については当法人のHP（<https://www.s-s-l.jp/>）をご参照ください。

寄附のお振込先口座 南都銀行 西大寺支店 普通 2061041
振込先名義：(シャ)ソーシャル サイエンス ラボ

お問い合わせ・お申し込み先 当公益社団法人 TEL: 0742-20-7807 E-Mail: info@s-s-l.jp



公益社団法人
ソーシャル・サイエンス・ラボ
Social Science Lab

発行：公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ
<https://www.s-s-l.jp/>
お問い合わせ先 info@s-s-l.jp

【事務局】
〒630-8305
奈良市東紀寺町2-10-1
TEL: 0742-20-7807

2023年度 活動報告書

公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ

Contents

1 奈良 SDGs学び旅	1-2
A 奈良 SDGs 学び旅—各機関からの受賞	
B 奈良 SDGs 学び旅—教育旅行	
C 奈良 SDGs 学び旅—教育旅行プロモーション	
2 奈良県の新しい観光実証事業	3-5
A インバウンド向け事業	
B 地域連携—奈良県ビジターズビューロー	
C 地域連携—奈良商工会議所	
D 団体連携—一般社団法人伝統を未来につなげる会	
E 地域連携—奈良県受託事業	
3 高圧経済研究部会	6
4 中小事業者への経営支援	7
5 理事紹介	8-10

Theme1

奈良 SDGs 学び旅

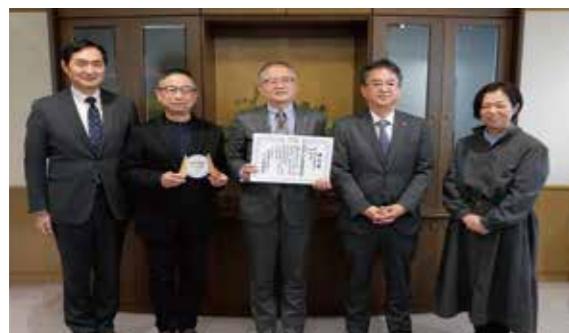
奈良新しい学び旅推進協議会は、2020 年度以来取り組んできた「奈良 SDGs 学び旅－教育旅行」を運営し、令和 5 年度末時点で累計約 90 校（約 9,000 名）の実績を残しました。併せてガイド団体への支援、全国レベルで学校や旅行代理店への提案、学び旅紹介イベントの開催（ファムトリップ、実施校による事例発表）、学級新聞（メルマガ）の発行、紹介動画の作成にも取り組みました。

【A】奈良 SDGs 学び旅－各機関からの受賞

持続可能な社会の創り手育成と県内観光産業の振興に向け 2020 年度より取り組んできた「奈良 SDGs 学び旅」事業は、関係する機関からも好評価をいただけるまでになりました。

(1) 地域再生大賞

地方新聞 46 紙と共同通信が、地域活性化の取り組みを表彰する「第 13 回地域再生大賞～創ろう新時代 希望掲げて～」において「奈良新しい学び旅推進協議会」は優秀賞を受賞しました。



(2) 環境教育・ESD 実践動画 100 選

環境省が環境教育・ESD 実践の優良動画事例を選定し、優良事例のショーケースとして発信する「環境教育・ESD 実践動画 100 選」に「奈良新しい学び旅推進協議会」が選ばれました。



社会教育部門



環境教育・ESD 実践動画 100 選 #68 奈良新しい学び旅推進協議会

奈良 SDGs 学び旅～～課題解決力を育む新しいスタイルのラーニングツーリズム～

奈良新しい学び旅推進協議会
福山浩之

地域コミュニティ
生物多様性保全、自然環境保全
教材・ツール

【B】奈良 SDGs 学び旅－教育旅行

今年度、教育旅行の分野では 33 校 (4,000 名) の実績を残し、2020 年度からの累計も約 90 校 (約 9,000 名)となりました。

奈良 SDGs 学び旅 2023 年度実績報告

(2024/3/31 時点)

		小学校	中学校	高校	合計
教育旅行	件数	3	23	6	33
	人数	265	3094	641	4000

前年度利用実績：3,493 名から、507 名増加しています。
また、利用頂いた翌日に翌年の予約が入るなど、
着実にリピート校が増えつつあります。

【C】奈良 SDGs 学び旅－教育旅行プロモーション

2023 年度は、ターゲットを教育旅行の決定力・影響力（推奨力）を持つキーパーソンにあて誘客し、学び旅実施校の旅アト体験発表会（オンライン）を開催しました。

(1) 校長・教員・代理店向けのファムトリップの実施

【実施概要】

実施日：2024 年 1 月 26 日（金） 13:00 ~ 16:15
会 場：奈良工商会議所
参加者：4 名（教員 2 名：埼玉県高校教諭、福井県小学校教諭 旅行会社 2 名）
体験内容：SDGs 講義、東大寺フィールドワーク



SDGs 講義の様子

東大寺大仏殿にて

(2) 第 1 回 奈良 SDGs 学び旅・体験発表会 プrezentスタジアムの実施

【実施概要】

実施日：2024 年 1 月 27 日（土） 10:00 ~ 12:00
参加校：3 校
司 会：奈良教育大学ユネスコクラブ学生 2 名
コメンテーター：
峯川郁朗氏（奈良新しい学び旅推進協議会会長）
中澤静男氏（奈良教育大学 ESD・SDGs センター長）
小路 楓氏（近畿地方 ESD 活動支援センター）



オンラインにて実施

発表中の様子

(3) その他のプロモーション活動の取組

その他のプロモーション活動として、学び旅学級新聞の発行、プロモーションビデオの制作をしました。
制作したプロモーションビデオには、利用した学校教員のインタビュー・アンケート結果も盛り込み、
これらの動画や新聞は、ホームページや YouTube にて公開しました。



学び旅学級新聞



プロモーションビデオの制作



Theme2

奈良県の新しい観光実証事業

国内外からの観光客の急激な回復は奈良でも顕著で、3年ぶりの活況を肌で感じることができます。

本事業は、この流れを持続可能な観光まちづくりに着実につなげていくために実施しました。

【A】インバウンド向け事業

新たな取組として、外国人観光客が行きたい日本の観光地ランキング5位の東大寺、11位の奈良公園の知名度を活かし、奈良SDGs学び旅新コースの開発と実証、英語版ガイドブック・デジタルマップ制作、英語ガイド育成を行いました。

(1)インバウンドツアー「鹿との奈良めぐり～自然と歴史の調和ツアー～」の開発と実証

下記2コースの実証を行いました。各コースにテーマを与え、テーマに沿ったルートを設定しました。
また、専門家の引率のもと、通訳がイヤホンガイドを用いて同行し、お客様を英語で案内しました。

I 鹿×春日大社コース

- 【テーマ】①なぜ奈良公園にはシカがいるのか?
②シカはなぜ春日大社の「神の使い（神鹿）」なのか?
③春日大社創建以前の古い春日山信仰とは?
④シカは「神仏習合」（神=仏という信仰）と深くかかわっていた?
⑤なぜ春日若宮おん祭は春日大社の祭より盛大なのか?

【ルート】春日大社国宝殿～本殿～御旅所

【ツアー実証】2024年1月20日(土)12:45～15:45

参加人数：22名（インドネシア・オーストラリア・タイ・中国・南アフリカ・日本）

II 鹿×春日山原始林コース

- 【テーマ】①春日山原始林ってどんな場所？②春日山原始林のココがスゴイ！
③今、山では何が起きている？④森とシカの関係とは？

【ルート】春日大社国宝殿～水谷神社～月日亭～春日山原始林を少し進み折り返し

【ツアー実証】2024年1月23日(火) 12:45～15:45

参加人数：13名（アメリカ・メキシコ・中国・日本）



鹿×春日大社
ツアー動画



鹿×春日山原始林
ツアー動画

(2)英語版ガイドブックの制作



『奈良SDGs学び旅ガイドブック』から「春日大社」「春日山原始林」「奈良の鹿」の3章を抜粋し、英語縮刷版ガイドブックを制作しました。

(3)スポット解説動画実装のデジタルマップの制作 / WEBサイトの英訳化



鹿×春日山原始林コース
スポット解説動画



鹿×春日大社コース
スポット解説動画



デジタルマップ



WEBサイトの英訳

【B】地域連携—奈良県ビジターズビューロー



奈良の酒造・観光・食農の事業者協働による奈良の食と観光のリブランディングの推進に向けて昨年度始動した「日本の食の聖地巡礼・NARA」プロジェクト。2年目の今年度は、訪日外国人をメインターゲットとする「奈良の伝統ガストロノミーツーリズム構築・発信・海外販路拡大事業」を奈良県ビジターズビューローと連携して推進。当公益社団法人は、日本清酒と日本の食文化のルーツを辿る7つのモデルツアーや実証を実施しました。

(1)奈良酒ガストロノミーディナーの開発・3ホテルでの実証

- 【モデル1】地域の名門ホテルや国内外の富裕層向けホテルでのラグジュアリーディナー
【モデル2】中規模以上のパンケットを持つホテルでの伝統文化体験プログラム付きディナー
【モデル3】ゲストに寄り添うホテルが行う、日本の伝統文化と歴史を五感で味わい、交流を愉しむディナー



10月22日 奈良ホテル
音楽ライブと奈良酒蔵元交流ディナー



11月5日 ホテル日航奈良
伝統の茶筅作り体験と奈良酒ディナー



11月20日 ホテルアジール・奈良 Wafuku で楽しむ奈良のEnkai



ホテルアジール奈良英訳チラシ

(2)日本一の柿のまち 五條市・柿づくしガストロノミーバスツアーの企画・実証

【モデル4】人気のお祭り「柿の里まつり」見学→築150年を超える古民家の農家レストランで、柿の収穫体験と柿尽くしのランチ→五條酒造見学→風情ある五條新町の人気レストランでの柿がテーマの料理とお酒のペアリング体験、のルートで回る柿づくしのプレミアムツアーを開発し、11月に実証しました。奈良の食と酒のマリアージュの解説やメニューを日英両言語で準備。また、通訳ガイドが進行役やホスト・ゲストの話を同時翻訳するなど、外国人参加者を想定したツアー催行にチャレンジしました。



なかなか予約の
取れない農家レ
ストラン「王隱
堂」で柿収穫体験
と柿尽くしラン
チを愉しむ



五條酒造見学、
庭には杉樽の茶室



五條新町「源兵
衛」にて柿
ワイン、地酒「五
神」と柿加工品と
のペアリング体験

(3)本清酒発祥の地・正暦寺で晩秋の紅葉体験プログラムと冬の菩提醸仕込み特別公開プログラムの開発・実証

絶景の紅葉でにぎわう日本清酒発祥の地・正暦寺で今も酒造りに携わる大原住職らの案内・講話と菩提醸研究会の蔵元たちの特別なトークが楽しめる2つの体験プログラムを開発しました。【モデル5】晩秋の絶景紅葉ツアー、11月に実証。【モデル6】通常非公開の「菩提泉二度仕込み」の特別公開ツアー、1月に実証。



正暦寺・大原住職が蔵元たちと連携、自らも奈良の酒造りの歴史トークから広大な境内のツアー案内、書の指導、茶席までを幅広くこなす。



(4)侘茶発祥の地・奈良の食と農の歴史を趣向とした本格茶会と茶懐石体験プログラムの開発・実証

【モデル7】奈良の食と農と茶の湯の歴史を五感で体験できる食事と茶会のプログラム。英訳教材と共に企画制作し、1月に実証しました。当日は茶席に長けた通訳ガイド2名を配置し、外国人にとっても分かりやすい会場づくりや演出を行いました。



英語での事前レクチャーに加え料理メニューや由来も全て英語解説資料を制作・活用。 席主 藤丸正明氏も通訳ガイドと連携して茶席運営

Theme2

奈良県の新しい観光実証事業

【C】地域連携—奈良商工会議所

新たな観光資源の開発へつながる事業として、2020年にユネスコ無形文化遺産に指定された「伝統建築工芸の技」について数多く触れることができる事業を、奈良商工会議所と連携して実施いたしました。

万博エクスカーション 2023年11月16日(木)開催

【テーマ】「宮大工の棟梁と歩く～伝統建築から匠の技・思いを感じ・学ぶコース」

【概要】奈良商工会議所を通じて提案し採択された国際参加国際会議 2023年秋

(IPM2023Autumn) のエクスカーション事業。

木工・屋根葺ぶき・左官・装飾などの伝統建築修理の技術は、木・草・土などの脆弱な自然素材で地震や台風に耐える構造と豊かな空間を生み出し、法隆寺をはじめとする歴史的建築遺産に不可欠な保存修理技術です。そこで、自然と共生する日本人の生活を通じて培われた伝統木造建築技術を次世代に継承することを目的とするエクスカーション事業を奈良商工会議所を通じて提案しました。

【参加人数】20名

【行程】①法隆寺案内：日本を代表する宮大工、鶴工舎 棟梁 小川三夫氏
南大門、中門、五重塔、大講堂、回廊、金堂、夢殿。

小川棟梁のお話を通訳ガイドが逐次通訳し、参加者はレシーバーで聴講。

②薬師寺案内：堂宮大工 薬師寺棟梁 石井浩司氏

堂宮大工 薬師寺元副棟梁 藤井利成氏
大講堂、東回廊、東塔、中門、金堂、西僧房、木加工場。
水煙の特別公開。木加工場での槍鉋でのヒノキ削り体験。



石井浩司氏による槍鉋の実演

【D】団体連携—一般社団法人伝統を未来につなげる会

上記の実証を受けて、一般社団法人伝統を未来につなげる会と連携し、
薬師寺にてシンポジウムを共催しました。

伝統を未来につなげる会シンポジウム 2024年2月4日(日)開催

【テーマ】白鳳伽藍復興50年を振り返り、薬師寺1300年の技術と継承を考える

【開催場所】薬師寺まほろば会館

【登壇者】堂宮大工 薬師寺棟梁 石井浩司氏

堂宮大工 薬師寺元副棟梁 藤井利成氏

工学院大学総合研究所教授・理事長 伝統を未来につなげる会 会長 後藤治氏

【参加者】96名

【概要】このシンポジウムは、伝統を未来につなげる会との共催で開催しました。登壇者が薬師寺の東塔の解体修理に関する詳細なお話と、近年の建築技術に対する考え方についてパネルディスカッションを行いました。

東塔の解体作業においては、部材のバラバラさが確認され、これを通じて過去の建築プロセスや技術の特性についての洞察が得られました。また、最近の復元作業においては、部材の保存に過度に焦点が当たられていることや、修理作業においての課題も議論されました。



まほろば会館での
シンポジウムの様子



石井棟梁との交流

【E】地域連携—奈良県受託事業

大人のならびと見聞録

奈良SDGs学び旅と共に趣旨・目的を有する右記事業を奈良県より受託、奈良公園にゆかりのある行事について奈良公園バスターミナルでのイベントを計4回開催しました。

No	開催日	参加者数	テーマ
1	7/28	48名	夏の風物詩「なら燈花会」をつくる物語
2	10/6	117名	正倉院展が100倍面白くなる 国立博物館の主任研究員が教える今年のみどころ
3	12/21	70名	はじまりの火は春日大社の御神火！ 春日大社の禰宜と語る若草山焼きと春日大社の歴史
4	2/15	76名	修二会（お水取り）の素晴らしさを改めて知ろう！ 752年から途切れることなく続く東大寺の伝統行事！

Theme3

高压経済研究部会

高压経済とは、財政政策と金融政策の両面から人手不足経済を作り出すことで雇用拡大を図り高い経済成長を目指すとする考え方です。その手法が日本経済の停滞が続く昨今において景気浮揚策として有効であると考えられている一方で、高压経済による過度の刺激が財政赤字や金融の不安定化をもたらすとの懸念も指摘されています。

2023年度は、主な取り組みとして講演会の開催と「税収弹性値予測コンテスト」の開催をしました。

(1) 講演会の開催 【座長：原田泰元日本銀行政策委員会審議委員（当公益社団法人特別主任研究員）】

前年度に引き続き、高压経済の周知拡大に資する講演会を会場とWebのハイブリッドで開催しました。

回	開催日・場所	講演者、講演テーマ（敬称略）
第1回	2023年4月6日 TKP 東京駅カンファレンスセンター	①会田卓司 クレディ・アグリコル証券 チーフエコノミスト 「アベノミクスの完成には積極財政が必要」 ②佐藤綾野 青山学院大学法学院 教授 「今、日本経済に必要なこと」
第2回	2023年7月5日 大手町三井カンファレンス	①西田昌司 参議院議員 「積極財政について」 ②井上智洋 駒澤大学経済学部 准教授 「高压経済の理論的根拠」
第3回	2023年9月13日 TKP 東京駅カンファレンスセンター	①松本尚 衆議院議員 日本医科大学特任教授 自民党積極財政推進議員連盟役員 「財政金融政策を学ぼう」 ②森永卓郎 経済アナリスト 「フリートーク（著書「ザイム真理教」配布）」
第4回	2024年1月17日 TKP 東京駅カンファレンスセンター	①城内実 自民党政幹事長 自民党政務調査会副会長 「責任ある積極財政を推進する議員連盟 顧問 「フリートーク」」 ②原田泰 先駆者商科大学ビジネススクール教授 高圧経済研究部会部会長 「高压経済とは何か」について

(2) 「税収弹性値予測コンテスト」の開催

2023年度及び2024年度の税収、名目GDP、税収弹性値を予測するコンテストを開催し、経済を考える労働世代、経済を学ぶ学生にまで広く参加を呼びかけました。



Theme4

中小事業者への経営支援

当公益社団法人は、中小企業診断士を擁する強み、認定経営革新等支援機関としての実績、さらに関係機関との密なネットワークを活かしながら、奈良県内の中小事業者の経営課題を解決するためのきめ細かな支援を行っています。

2023年度は、新型コロナの5類への移行や企業の積極的な貸上げへの期待等により、景気回復の兆しも見受けられました。しかしながら、物価高による個人消費の停滞等の影響により、その動きは鈍く、多くの中小企業や小規模事業者にとって先行きの見通せない厳しい年となりました。

こうした状況を受け、当公益社団法人は、数多くの県内中小事業者を対象に、事業再構築に向けた現状分析、事業計画策定から実施評価と改善に至る一連の活動をサポートしてきました。

一方、当公益社団法人は、経営の再起と更なる飛躍を後押しする中小事業者向け補助金制度に着目し、事業者にこうした補助金の活用を促しました。さらに、補助金応募申請や採択後の交付申請、補助事業の遂行や実績報告等の支援も行ってきました。

【1】ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金

公募回	市町村	事業者名	補助事業テーマ
第11次	奈良市	天迦久珈琲	珈琲豆のオーダーメイドブレンドでネット通販事業へ挑戦

【2】中小企業等事業再構築促進補助金

公募回	市町村	事業者名	補助事業テーマ
第4回	東吉野村	観光旅館杉ヶ瀬	老舗旅館が挑む！地元食材を活かしたフレンチの新分野展開
第4回	奈良市	株式会社 春	春ブランドの知名度を活用したFC事業とEC販売への挑戦
第5回	奈良市	株式会社 リンコントロ	生産者とお客様を繋ぐファミリーレストラン事業への挑戦
第5回	奈良市	株式会社 ロワゾブリュ	経営資源を活用したベトナムスイーツのキッチンカー展開
第7回	奈良市	POOL	フランス仕込みのシェフによるフランスの本格焼き菓子店の開発
第8回	大和高田市	株式会社鈴木運輸	健康志向にシフトする社会へ運送会社が野菜加工事業で挑む！

【3】小規模事業者持続化補助金

公募回	市町村	事業者名	補助事業テーマ
第8回	奈良市	株式会社 春	奈良の人気洋食店によるFC・小売販売事業への挑戦
第10回	奈良市	OYATSUYA323	最高級ホテル出身のパティシエによるスイーツ販売への挑戦
第10回	大和高田市	株式会社 鈴木運輸	青果運送の強みを活かした新鮮野菜の小売販売新規事業への挑戦
第14回	奈良市	山田孝二	食と農の知識を活かした60歳からの新規開業への挑戦
第14回	奈良市	野球教室 Growing	地域と密着した関係性を築く！野球教室の新たな挑戦

Theme5

理事紹介



理事長
日置 弘一郎
ひおき こういちろう

<経歴>

京都大学名誉教授、鹿児島大学稻盛アカデミー客員教授。1972年京都大学経済学部卒、1977年大阪大学大学院経済学研究科後期課程中退。茨城大学社会科学部助手、京都学園大学(現京都先端科学大学)講師を経て、1983年九州大学助教授、1992年京都大学助教授、1999～2015年京都大学経済学研究科・経済学部教授。この間、国立民族学博物館、国際日本文化研究センター併任。2015年鳥取環境大学経営学部教授、2018～2020年就実大学経営学部教授を経て、現在に至る。近著として、鹿児島大学稻盛アカデミー叢書第二巻「利他の2021年退官。構造」を奥野明子らと執筆しミネルヴァ書房から刊行、東洋経済新報社「人材育成事典」項目執筆。所属学会は、経営人間学しごと能力研究会。

<活動・研究内容>

専門は、組織論、経営人類学。社会の中での企業の役割を考えることが研究テーマの中心としている。

ものづくりについてのビジネスモデルの多様性を分析する事業創成という学問を考えた。また、企業と他の社会的主体(家庭や地域社会、他の事業主体など)との共生を考える共生経営という領域を提唱している。さらに、国立民族学博物館の共同研究として経営人類学という理論領域を作り出し、20年以上継続して研究している。

一方、九州大学在籍時に福岡県の水産物付加価値向上委員会の委員長を務め、水産物への関心は高い。また、旅館の女将さんの研究にかかるなど地域経済や地域経営といった領域でのテーマについて関心を持つ。さらに、最近は産業集積に关心を持ち、単一の企業を最適化するというこれまでの経営学ではなく複数企業の相互最適化という枠組みで経営学を再構成する構想を追求している。



専務理事
川井 徳子
かわい のりこ

<経歴>

1981年立命館大学(文学部西洋史学専攻)卒業。国立博物館評議員。創業の地である奈良県を中心に、西日本でホテル経営などの観光・宿泊事業、物流事業、不動産事業を幅広く展開しているノプレスグループの代表。近代日本庭園「植治の庭」の再生に貢献。著書に「不動産は「物語力」で再生する」(東洋経済新報社)などがある。造園技術学会発行の学術誌に独自の分析を踏まえた「庭園・邸宅ビジネスの可能性」についての論文を寄稿。2020年11月観光庁の実証事業の採択を受け、奈良教育大学を中心に、県、市と協力し、奈良でSDGsを学ぶ「奈良新しい学び旅推進協議会」を立ち上げる。主な所属学会は、日本経済学会、日本造園学会、日本ESD学会、イベント学会。

<活動・研究内容>

今年は景気循環学会の事務局に関わったことで日本の経済成長について改めて考える機会となりました。

コロナが開けた瞬間に物価が上がり始めました。どうしてもロシアによるウクライナ侵攻が原油価格を押し上げた結果と円安が原因と考えられています。

一方で、為替の問題もあって日本人の賃金が下がった、下がったと大騒ぎです。

実力以上の円高が国際競争の中で日本の賃金上昇の足を引っ張ってきました。2015年にイスに行つたときに、チューリッヒの最低賃金が時給2400円と聞いて驚きました。当時、東京の平均賃金は790円でした。

円高に騙されて日本は豊かになったように誤解していたのです。これほどの賃金格差が2015年の時からあったのです。

物価があがる以上に賃金、特に手取りが増える社会をいかにして実現するか。そのことがいま問われているように思います。



理事
飯田 泰之
いいだ やすゆき

<経歴>

1975年7月 東京都生まれ 埼玉県日高市育ち
1998年3月 東京大学 経済学部 卒業
2000年3月 東京大学大学院 経済学研究科 修士課程 修了
2003年3月 東京大学大学院 経済学研究科 博士課程 単位取得退学
2003年4月 駒澤大学 経済学部 専任教師
2007年4月 駒澤大学 経済学部 准教授
2013年4月 明治大学 政治経済学部 准教授
2022年4月 明治大学 政治経済学部 教授(現職)

<活動・研究内容>

マクロ経済の理論について従来型のモデルから、需要要因の長期的な供給能力への影響に注目した高圧経済論を研究テーマとしている。これまで産業間労働力移動に焦点が当てられてきた高圧経済論について、地域間人口移動に注目したモデルの構築と実証分析を進めている。成長余力に乏しい東京圏から地方都市、成長余力のある製造業集積地への人口移動はこれから日本経済の成長エンジンとなりえる。本年度からは明治大学地域経済研究所との連携を通じて、フィールドワークを含めた多様性ある研究成果を目指している。

Theme5

理事紹介



理事
馬場 正哲
ばば まさあき

<経歴>

株式会社地域計画建築研究所顧問兼主席研究監。1973年関西大学工学部建築学科卒業、同年株式会社地域計画建築研究所(アルパック)入社。取締役計画部長・総務部長・副社長を経て現職。地域計画とともにニュータウン計画、市街地再開発・都市開発プロジェクト、地域・産業・観光・文化振興計画、市街地・環境・景観整備計画、建築・ランドスケープ計画を担当。技術士、一級建築士、一級造園施工管理技士、再開発プランナー、元認定都市プランナー、マンション建替えアドバイザー。(一社)再開発コーディネーター協会、(公社)日本建築家協会、(一財)日本グランドワーク協会に所属。著書:都市再生・街づくり学~大阪発・民主導の実践~(㈱創元社(大阪市街地再開発促進協議会編・共著)など。所属学会は、日本都市計画学会、日本建築学会、日本観光研究学会。

<活動・研究内容>

まちづくりの根本は、地域が健全に地域を統治する意識と仕組みができていることだと考えます。かつての日本には合議による地域運営が培われていたといわれます。しかし、明治維新の富国強兵の中央集権・国家高権、敗戦による復興・経済成長最優先や一極集中、グローバル化などの混乱を背景に、地域での主体性が曖昧模糊となり、健全な国家の土台が揺らいで久しい。今日漸く、官から民へ、市民が地域を担う時代が求められるようになり、このことも混乱の課程でもあります。大事なことは、ネットワーク型まちづくりの仕組みを息づかせることと考え、生命体のシステム(三つの系)をまちづくりに構築することを実践的に考えています。①神経系:地域自治の体制を構築/自治会等の再生/市民の自覚/行政の改革(アウトリーチ) ②免疫系:ネットワークの構築/多様な活動の連携・情報・学習機会の共有 ③中枢系:地域理念の堅持/構想をもつ/「造化」の再生(天地の万物を創造し、化育する:列子「周穆王篇」)を目指しています。最近では、尼崎の「田能の里芋」の保全・振興・販売拡大に、市民が都市農地で取り組み、プランディングから、地域のテリトリー戦略に昇華させる試みに取り組んでいます。



理事
中澤 静男
なかざわ しげお

<経歴>

1982年立命館大学文学部史学科卒業。奈良県内の小学校に勤務するかたわら、社会科教育について研究し、2004年奈良教育大学大学院教育学研究科社会科教育専攻修士課程を修了。奈良市教育委員会指導主事を経て、2011年より現職(奈良教育大学教育連携講座教授、ESD・SDGsセンター長)。日本ユネスコ国内委員会内委員。所属学会は、日本ESD学会、日本国際理解教育学会、日本環境教育学会、全国社会科教育学会、日本社会科教育学会、産学連携学会

<活動・研究内容>

2023年にユネスコから「ESD for 2030ロードマップ」が発行され、その序文に「我々はまさに人類の生存を懸けた闘いに直面している」というグテーレス国連事務総長の言葉が掲載されています。そして、ESDもこれまでの評価ではなく、学習内容とそれによる人間と地球の持続可能性への貢献に重点を移すと明記されました。つまり、持続可能な将来のための行動の変革の有無に評価の重点を移すということです。さらに変革は、「個人的な信念、洞察、あるいは何が正しいかという単なる感覚から生じることが最も多い」と述べられています。昔から日本人には、自然は征服対象ではなく畏敬すべきものであるという感覚があります。この日本人の単なる感覚を育ててきたもののは何でしょうか?幼児期に周りの大によって繰り返し教え諭されてきた言い伝え、仏教童話、物語等々。これらが日本人のソマティックマーカー形成に影響していると考え、研究しています。



理事
岩井 洋
いわい ひろし

<経歴>

帝塚山大学全学教育開発センター教授。1991年上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。帝塚山大学経済学部教授、同副学長を経て、2012年より同学長、2017年から2021年まで文学部教授、2021年より現職。日本宗教学会理事、奈良シニア大学で学長をつとめ、奈良校、橿原校、東京校とともに大阪校を開設し、シニア層に学びの機会を提供している。研究活動としては、宗教とビジネスあるいは経営との関係と分析する「宗教の経営学」と「経営の宗教学」を研究中である。また、産官学が連携する研究プラットフォームとして「経営人類学研究会」を主宰している。

<活動・研究内容>

地域社会への貢献活動として、「五條市地域・産業ブランド推進協議会」の座長をつとめ、同市における地域商社の運営を支援するとともに、NPO法人五新線再生推進会議の理事長をつとめ、幻の鉄道・五新線を観光資源として活用する活動をしている。また、奈良シニア大学で学長をつとめ、奈良校、橿原校、東京校とともに大阪校を開設し、シニア層に学びの機会を提供している。研究活動としては、宗教とビジネスあるいは経営との関係と分析する「宗教の経営学」と「経営の宗教学」を研究中である。また、産官学が連携する研究プラットフォームとして「経営人類学研究会」を主宰している。



理事
大江 忍
おおえ しのぶ

<経歴>

1983年名城大学理工学部建築学科卒。一級建築士。2006年、設計事務所と木造専門工務店である有限会社ナチュラルパートナーズを設立、代表取締役として現在に至る。2013年より(一社)職人がつくる木の家ネット代表。2018年より(一社)伝統を未来につなげる会 専務理事。2018年より愛知産業大学招聘教授。日本建築学会に所属。愛知建築士会会員。

<活動・研究内容>

(一社)伝統を未来につなげる会においては、2023/7に故・中村昌生先生が創立されました日本建築専門学校(現在:日本建築藝術大學)へのヒアリングに後藤治会長と訪問し大工養成の教育について情報交換をしてきました。2024/2にSSL共催にて、「薬師寺シンポジウム」(参加者96名)を薬師寺にて開催し東塔の修理工事や宮大工の心技について、薬師寺に携わった棟梁二名の話を伺い、お二人の解説を聞きながら実際の建築物を見ながら白鳳伽藍の再建について学ぶことができました。2024/3平城旧跡・東塔復原工事現場見学会(参加者30名)を開催し、実際の伝統建築技術に依る復原現場を視察しました。個人の事業といたしましては、伝統技術を用いた住宅の新築や数寄屋住宅の再生をいたしました。所属する愛知建築士会において、特別部会の部長となり伝統的構法住宅の普及促進および社会的認知、省エネ法に対する「気候風土適応住宅」の愛知県における認定のガイドラインづくりを始め、県の条例策定にむけての提案をいたします。



理事
田中 俊行
たなか としゆき

<経歴>

2005年同志社大学文学部美学芸術学科卒業。大学在籍時には、華道史といけばなの定義についての研究を行う。大学卒業後は、野村證券株式会社にて8年間にわたり、地域優良法人やそのオーナーなどに対し、新規開拓営業を中心として金融商品や不動産、企業買収など幅広い資産管理の提案業務に従事。2013年に野村證券を退職後、2016年まで一般財團法人池坊華道会において池坊に所属する400支部14000名の先生方が個人で運営するいけばな教室への運営サポートを行う。2016年から自身の両親が運営するいけばな教室を引き継ぎ、流派内の同世代では最も多い100名弱の門弟を抱えて活動している。2021年より中小企業診断士として活動。現在までに300社以上の経営支援に携わる。2023年から地域社会に良い影響を与え共感を生みだす事業を行っている地域企業の研究を行っている。

<活動・研究内容>

私は日本文化の将来にわたる持続維持を研究テーマとしています。例えば、私の本職であるいけばな人口は減少の一途をたどっています。日本の伝統文化・技芸はいけばなと同じような状況であり、どのように今後の社会の中で持続維持可能な存在にしていくことができるかに取り組んでいます。また、私は当公益社団法人内において2020年度より県内の中小企業支援の活動を行っています。さらに人口減少による大企業による寡占化に立ち向かうための地域企業の生存戦略として社会や地域に良い影響を与える地域から共感を生みだし信頼の厚い地域企業の研究も行っています。コロナ禍でうけた融資返済が重荷となり事業継続が困難になる事業者様が増加しています。従来の支援に加え、円滑に資金が回っていくような支援や売上回復のための支援、5年後10年後の未来を見越した中小企業支援を行っていきます。